

現代イスラーム世界を 眺望する ―研究の最前線―

現代の国際政治・経済において、紛争と難民、エネルギー問題、過激派の台頭など、イスラーム世界に関わる問題が大きな関心を集めています。本シンポジウムでは、東南アジアやアラブまで様々な地域の専門家を招き、政治・経済・思想の3つの分野から、現代イスラーム世界の最新の实像に迫ります。

日時 **2020年1月11日(土) 13:00～17:00**
(開場時間: 12:30)

場所 立命館大学衣笠キャンパス
創思館1F カンファレンスルーム(定員140名)

事前登録不要
入場無料

アクセス <http://www.ritsumeai.ac.jp/accessmap/kinugasa/>
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL 075-465-8144(キャンパスインフォメーション)

挨拶・趣旨説明: 末近 浩太 (立命館大学)

第一部 政治 司会: 末近 浩太 (立命館大学) 13:05-14:15

横田 貴之 (明治大学) 「エジプトにおけるムスリム同胞団の新たな挑戦とその課題」

山尾 大 (九州大学) 「EU難民危機は中東でいかに報道されたのか ―量的テキスト分析から―」

山本 健介 (日本学術振興会) 「ポスト・オスロ合意時代のエルサレム・パレスチナ社会
―併合への抵抗と日常化の狭間で―」

・質疑応答 (10分間)

第二部 経済 司会: 千葉 悠志 (公立小松大学) 14:15-15:25

堀抜 功二 (日本エネルギー経済研究所) 「湾岸産油国におけるエネルギー消費をめぐる複合的課題」

ハシャン・アンマール (立命館大学) 「イスラームの市場と資本主義の市場原理の拮抗
―いにしへの商都アレppoの情景を回顧しつつ―」

足立 真理 (京都大学) 「現代インドネシアにおけるザカート (喜捨) 制度化への挑戦と課題」

・質疑応答 (10分間)

<休憩 15:25-15:35>

第三部 思想 司会: 須永 恵美子 (日本学術振興会) 15:35-16:45

黒田 彩加 (日本学術振興会) 「アメリカ・ムスリム知識人による過激派批判と国際政治の動向
―『アラブの春』以降のイスラーム思想のゆくえ―」

黒田 賢治 (国立民族学博物館) 「イスラーム思想の実践としての身体鍛錬 ―イランの空手道場を事例に―」

小杉 泰 (立命館大学) 「宗教をめぐる新しい布置図とイスラーム法源学の復権」

・質疑応答 (10分間)

閉会挨拶

主催・共催: 立命館大学アジア・日本研究所、中東・イスラーム研究センター、国際地域研究所
科研費基盤A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向: 過激派と対峙する主流派」(研究代表者: 小杉泰)
科研費基盤B「現代中東における政治と宗教: 『アラブの春』以降のムスリム同胞団を事例に」(研究代表者: 横田貴之)
科研費基盤B「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」(研究代表者: 末近浩太)
科研費新学術領域研究計画研究B02「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」(研究代表者: 末近浩太)
NIHUプログラム「現代中東地域研究」京大拠点・第2班「イスラーム中道派研究班」
連絡先: 17v00017@gst.ritsumeai.ac.jp (担当: 二宮)